

「上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』を読む」第8章

〈この章を読んだ印象をグループで話してみよう〉

図表 1-1 90年代以降の内閣

91～93年	宮澤喜一 (自民政権)
93～94年	細川護熙 (反自民連立政権)
94年	羽田孜 (反自民連立政権)
94～96年	村山富市 (自社さ連立政権)
96～98年	橋本龍太郎 (自社さ連立政権)
98～2000年	小淵恵三 (自自公連立政権)
00～01年	森喜朗 (自公保連立政権)
01～06年	小泉純一郎 (自公保連立政権)
06～07年	安倍晋三 (自公連立政権)
07～08年	福田康夫 (自公連立政権)
08～09年	麻生太郎 (自公連立政権)
09～10年	鳩山由紀夫 (民国社連立政権)
10～11年	菅直人 (民国連立政権)
11～12年	野田佳彦 (民国連立政権)
12年～現在	安倍晋三 (自公連立政権)

〈ことば〉

ホモソーシャル

同床異夢 (どうしょういむ) = 同じ立場、同じ仕事でも目標が異なっていること。

結託 (けったく) する = 悪巧みの仲間、共謀者

既得権益集団から転落する下流男と改革から利益を得てのし上がる成り上がり女  
女叩き

とんでも女 = とんでもない女たち

保守とは、現状維持を望む思想・言挙げしない思想 (江藤淳)。それに対し、旧来の価値を守れと言  
い立てなければならない状況 → 新保守 (反動勢力へ)

抑圧委譲の原理 (丸山眞男) = 上の者に叩かれた下の者は、さらに弱い者を叩く

男女別姓推進派 (別姓が認められるなら結婚したい → 実は家族好き?)

ネット上言論のシニシズム = (シニシズム; すべてのものごとを冷笑的に眺める見方や態度) ベタを  
避けて、ネタにして笑うシニカルな態度のこと

〈この章のトピック〉

ネオリベは何をもたらしたか? → 格差の拡大

99→男女共同参画社会基本法／国家国旗法

ネオリベ→競争と選別原理。性別も国籍も問わないユニバーサリズム（普遍主義）。

ナショナリズム→国境と国籍が大事な排外主義。

小泉（ネオリベ）から安倍（ネオコン：新保守主義）への移行

自己主張の強い女の代表＝フェミニズム

これまでの女性差別と「女叩き」の違い→男女共同参画社会とフェミニズムの浸透により、女性にも稼ぐチャンスが出てきた→ネオリベの罪科：男性間の格差拡大に対し、利益を得た女性へのバックラッシュ→バックラッシュ（揺り戻し・反動）

バックラッシュ集団＝女叩きという目的の下に結束した人々（①ネトウヨ、②新旧の保守言論人、③各地にいる草の根保守とその勢力を基盤とする新旧の保守政治家）

女性を叩かれる疑問①その女性たちはネオリベから本当に得をしているのか、②フェミニズムはネオリベを支持したわけではない、③女叩きの標的にはさまざまなタイプの女性が混在している  
=>要は、目障りになればどんな女性でも叩く=>本当の敵は誰か？

バックラッシュの共通点（①性差別意識、②それと結びつきやすい民族意識、③内向きの言論における公共性の不在、④強い危機意識と少数派としてのアイデンティティ）

バックラッシュの手法①戦略的・組織的である、②市民運動の手法、③メディアの利用、④男の尻馬に乗る女たちがいること

女叩きはどこから来るか→世の中の変化に取り残されたと感じる人々の間から始まる

男性＝既得権がある集団＝変化を望まない・変化しても遅い

女性や若者＝社会が変化したときにもっとも早期に影響を被る

ネオリベとナショナリズムの奇怪な結託再び